

学校教育目標	「自分が輝き、みんなが輝く上川井の子」 ○自らの課題に向かって主体的に粘り強く取り組む子を育てます(知) ○善悪を判断し、思いやりをもって、共に生きる子を育てます(徳) ○心も体も健康で、自他の声明を大切にすることを育てます(体) ○上川井をふるさとと思い、人や自然と関わろうとする子を育てます(公) ○横浜や上川井の伝統や文化について自ら学び、社会の変化に対応できる子を育てます(開)						
	学校概要	創立 51 周年	学校長 縣 優子	准校長	小学部	一般学級: 6 個別支援学級: 2	児童数 123 人
		2 学期制	副校長	佐々木和美	中学部	一般学級: 個別支援学級:	生徒数 人

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力
<自分づくりに関する力>

「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
自主性を身につけ、互いの良さを認め合う心豊かな子
<ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサルデザインを生かした授業づくりを進め、各教科、領域において児童に「わかる」授業を工夫していく。 ・児童生徒交流日以外にも、中学校との交流の機会を積極的に増やす。 ・子ども像を共有しながら専任会や教務主任会で情報交換し、児童指導や特別支援教育に生かす。

中期取組目標	○子ども一人ひとりを大切に安心して豊かに学校生活を送れるようにします。
	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の楽しさを実感できる授業づくりを推進し、家庭と連携しながら学力を向上させます。 ・一人ひとりが自己有用感をもち、他者を尊重しながら楽しく学校生活を送るようにします。 ・心も体も元気であるための生活習慣が形成できるようにします。 ・家庭、地域との連携を深め、積極的に地域とともにある学校づくりをめざします。 ・教職員一人ひとりの特性を生かし、チームとして組織的な学校運営を進めます。

重点取組分野	具体的取組
豊かな心	①一人ひとりのよい面を認め、自己肯定感や有用感を育てる。道徳等で学習したことを日常生活に生かしながら、社会規範を遵守することの大切さや他を思いやる気持ち等心の育成を図る。②異学年交流により、感謝の気持ちをもち、それを伝え合うことで、豊かな人間関係の構築に努める。
担当 心部会	
生きてはたらく知	①「上小Homework」の継続、チャレンジカップの充実によりメタ認知を高める。②ユニバーサルデザインを生かした授業づくりを工夫し基礎、基本の定着を目指す。③重点テーマを「言語を通して自分の思いを伝え合い、豊かな人間関係作りができる子の育成」とし、言葉を大切にしながら主体的な学びを目指す。
担当 学力部会	
特別支援教育	①特別支援教室を充実させ、主に算数を苦手とする児童の「わかる・できる」に繋げ、基礎・基本の定着に生かす。②合理的配慮や自閉症理解の研修の場を設定する。③管理職、専任、SCや担任との連携を密にし、担任や子どもの困り感をケース会議で取り上げ、問題が小さいうちに解決する。
担当 学力部会	
健やかな体	①学校保健委員会のテーマに沿って、毎食後の歯みがきを徹底し、家庭との連携のもとむし歯のない子をめざす。②「もぐもぐタイム」を全校で設定し、単に残量0を目指すのではなく、時間内に適量をバランスよく食べることを大切にす。③全校児童で縄跳びや持久走に取り組み、体力の向上を図る。
担当 心部会	
地域連携 学校運営協議会	①地域のクリーン作戦、ボランティア体験活動や地域行事等に、児童が積極的に参加する。②地域の歴史、戦争体験の話や書写指導等、「地域の先生」を積極的に活用する。③「地域・学校防災の日」の訓練内容をより充実させ、保護者や児童の防災に対する意識を高める。
担当 心部会	
児童生徒指導	①一人ひとりが安心して自分らしく楽しい生活を送れるようにする。②互いを認め合える雰囲気や安心して話せる環境づくりを行う。③どの職員も同じ意識で指導にあたるように、「上小スタンダード」の設定や児童の実態について共通理解を図る。
担当 学力部会	
人権教育	①若葉台特別支援学校との交流を通して、他を思いやる心、互いを認め合う心を育てる。②子ども同士が違いや多様な考えを認め合い、安心して自分を表現できる授業環境をつくとともに、子どもが「できた」「わかった」「認められた」と感じられる体験を通して、自尊感情や人権意識を育てるようになる。
担当 心部会	
自分づくり	①自分理解、他者理解の上に自分らしさを発揮し自己実現に向け、様々な人や地域社会と積極的に関わっていくようにする。特に総合的な学習の時間、特別活動等において体験的な学習を通し、自分を見つめることができるようにしていく。
担当 教務部	
いじめへの対応	①一人ひとりが「学校に自分の居場所がある」「自分にはいいところがある」と実感できる受容的な環境をつくる。②小規模校のよさを生かし、全教職員が子どもに関わり、情報を共有し、児童理解をする。また、定期的な「いじめ防止対策委員会」の開催や児童への生活アンケートを通しいじめの未然防止、早期発見に努める。
担当 学力部会	
人材育成・ 組織運営 (働き方改革)	①職員のバーンアウトを防ぎ、児童と向き合う時間、授業準備のための時間を確保するために、行事等の精選や効率的、効果的な会議等、働き方改革の実践を目指す。②主幹や主幹候補が中心となり若手職員への指導助言を積極的に行い、互いに切磋琢磨できる場と環境を作っていく。
担当 教務部	